



能登のキリシマあかあかと 五月の空に匂いたつ
花は天眼^{てんがん} キリシマツツジ 萌^もえて真っ赤に咲き誇る

能登キリシマ節 (作詞: 藤平朝雄 作曲: 厚賢二)

6

平成22年



広報のと 第64号

平成22年6月1日発行

発行: 能登町 ■編集: 広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町字出津新1字1-97番地1

☎: 0768-62-10000
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

の
能登日和
英国日和
イギリス

能登町を故里として
英国で活躍する抒情書家

室谷文音がつづる
フォトエッセイ。



五色ヶ浜から望める立山連峰。
時間を忘れて見入ってしまいます。



親友を訪ねて行ったフランス
東部の町、ヘルフォート。
道の真ん中に噴水が出てい
て、思わずサンダルを脱ぎま
した。

「古いものを大切に」

11年間ロンドンで生活をしていて、机以外の家具を買ったことがありません。私の部屋にあった椅子、本棚、小さいテーブルはすべて道で拾ってきたものばかりでした。

ロンドンでは自分が家で使わなくなったものは玄関の前の庭に置いておくのです。そうすると、通りすがりの誰かが自分の家に必要なものだけ拾って行ってくれるのです。

もちろん無料ですし、誰かの役に立つ訳ですから悪い気もしません。時にはまだ動くランプやステレオ、テレビなど、「大物」とも出会ったりします。

少々壊れているものは自分で修理し、色を塗り直すとか新品そのものです。自分で少しでも手をかけると、愛着もわいて大切に使うようになるものです。

イギリスでは古いものを大切にする習慣があります。ひいおばあちゃんの使っていた家具で毎日過ごすのと、プラスチックに囲まれて育つ子どもたちに、考え方の違いが生まれて当然のように思います。

能登へ帰ってくる前、私も必要でなくなったものを家の前に出してきました。きつと今ごろ、私の家具たちは誰かの新しい家で次の人生をエンジョイしていることでしょう。



室谷文音 (むろや・あやね)

昭和55年大阪府生まれ。平成18年に両親と共に京都府美山町から移住。内浦長尾にアトリエ「桃花林」を開く。21年5月から能登町ふるさと大使。現在は、作品制作の傍ら展覧会の開催や講演を依頼されるなど多忙な毎日をお過ごし。



『ゆめ いっぱい』

